

大学間連携によるコミュニティ・プランナー育成の取組 The Community Planner Training by University Cooperation Project

○郷古 雅春[†] 山本 聡^{††} 千葉 克己[†] 柳澤 満則[†]
GOKO Masaharu YAMAMOTO Satoshi CHIBA Katsumi YANAGISAWA Mitsunori

1. はじめに

東日本大震災や阪神淡路大震災等の自然災害は、震災後の生存基盤として、また、復興に向けた合意形成や復興の主体としての地域コミュニティの重要性を我々に再認識させた。日本各地で予想される大震災への備えとしても、地域コミュニティの維持・活性化は重要な課題である。宮城大学と兵庫県立大学は、大学間連携共同教育推進事業を活用し、地域住民や行政、企業、諸団体などと協働して地域づくりの担い手になるような課題発見解決型の人材(=コミュニティ・プランナー)育成のための教育プログラムの確立に取り組んでいる。本発表では、農業農村分野を中心に、本プログラムの概要を報告する。

2. 大学教育におけるコミュニティ・プランナー育成の目的

地域に伝承されてきた風土、有形・無形の文化、景観、地域に暮らす人の生活や価値観から生まれる郷土への愛着、水利慣行等は、地域コミュニティの原点である。一方で、現在の地域社会においては、コミュニティ意識喪失への危機感が指摘されて久しい。地域コミュニティの活性化やそれを担う人材の育成は、現代社会が共通して取り組むべき課題の一つであり、ローカルおよびグローバルな視点で大学が果敢に挑むべき「最前線」の一つである。

本プログラムでは、『コミュニティ・プランナー育成プログラムの設計と確立』、『コミュニティ・プランナー教育センター(CPEC)(仮称)の設置運営』、『社会ニーズに合った質の高い教育の提供と効率的な大学運営』の3つを目標に掲げ、両大学と地域のステークホルダーが有する人材や施設等の資源を有効活用し、コミュニティ・プランナーの育成に取り組んでいる。

3. コミュニティ・プランナー・プログラムの概要

(1) コミュニティ・プランナーの育成像

本プログラムで育成を目指す「コミュニティ・プランナー」とは、地域の風土、歴史文化、地域共有の価値観などを踏まえた上で、課題解決への客観的な調査分析能力、協働のスキルと事業マネジメント能力、解決策を導くための専門的知識を身につけた人材である。さらに、隣接多領域にも深い理解を示し、コミュニティを基盤とした地域社会の再生に主体的に取り組む人材であり、多様で深刻な課題を抱える農業農村において、正に求められている人材像と言えよう。

(2) 3つのコア分野

本プログラムはグリーンデザイン、グリーンケア、グリーンビジネスの3つのコア分野を中心とした「講義+フィールドワーク(実践)」の形式を取る。学生は副専攻として本プログラムを選択することにより、地域コミュニティの現場に触れ、その実態を自らの目で見て・聞いて・体験して、学習する機会を持つ。このことにより主専攻への理解を深め、地域の人びとと共に地域本来の良さを活かしたコミュニティづくりの提案を行うことのできる技能の習得を目指す。3つのコア分野は図1と次に示すとおりである。

◆**グリーンデザイン分野**： 景観形成や文化的景観の保全などをはじめ、農村計画、土地利用、環境、建築等のデザイン分野からのコミュニティ形成プロセスの実践教育を行い、安全・快適・美しいコミュニティづくりを目指す。

[†]宮城大学 Miyagi University ^{††}兵庫県立大学 University of Hyogo

キーワード 教育手法、技術者育成、農村振興

◆**グリーンケア分野：** 花と緑による福祉医療やストレスケアについて、グリーンケア(園芸療法)分野からの体系的な実践教育プログラムを実施し、健康・癒しのコミュニティづくりを目指す。

◆**グリーンビジネス分野：** 地域活性化に向けた新たな土地利用、地場産品の開発、農地の有効利用、6次産業化などグリーンビジネス立ち上げのための事業プロセスについて、現場を通じた実践教育を行い、生業・自立のコミュニティづくりを目指す。

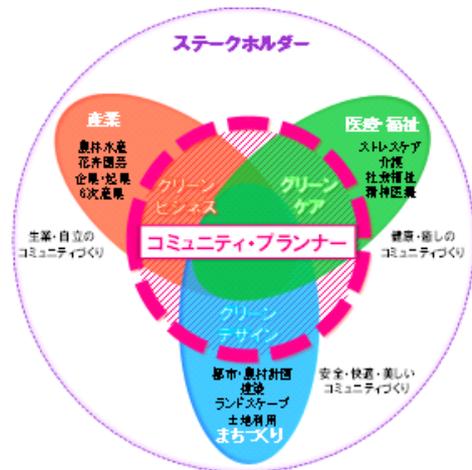


図 1 コミュニティ・プランナー育成の概念図

4. 農業農村整備におけるコミュニティプランナー

農業農村整備事業は、事業計画、実施、施設の維持管理のすべてのステージにわたり、国・県・市町村等の事業主体と、コミュニティとの密接な連携・調整が求められる。特に東日本大震災では、防災集団移転促進事業により農村集落が高台に移転・再編され、従来の生産と生活が一体となった農村空間から、それが分離し通勤農業の空間に変わる地域も計画されている。これまで地域の共同作業として行われてきた水路等の維持管理作業と、新しいコミュニティとの関係をどのように築いていくのか。また、農業水利施設等の社会的インフラだけでなく、自然環境、農業水利のルール、農村地域の文化をどう維持していくのか。さらには、それを担う組織や、人材の確保・育成などを含めた、社会的共通資本としての農業・農村システムの強靱化をどのように進めていくのかなど、コミュニティに関わる課題は多い。さらに、人口減少時代を迎え、行政だけに頼らない社会の構築が必要と考えられるが、人口減少のリーディングエリアである農村は、コミュニティプランナーのニーズの最も高い地域といえよう。農村は問題のリーディングエリアでもある。大学における農業農村工学教育では、様々な問題の中から真に解決すべき課題を見つけること、すなわち、課題発見力を磨くことが必要であり、コミュニティプランナー・プログラムは、それを経験・体感する中で学習していくことが大きな特徴といえる。

5. おわりに

東日本大震災は農業農村工学分野においても、技術者を始めとする人材育成の重要性を再認識させた。農業農村工学のように課題発見力と現場実践力を求められる分野の技術者育成は一朝一夕にできるものではなく、学校教育と行政・企業等による実践フィールドとの強力な連携により可能となる。震災により多くのコミュニティが突然失われてしまった東北地方では、地域再生における人々の絆や信頼関係、地域資源の重要性を再認識し、その継承と再構築に取り組んでいる。これは多くの地方都市が抱える課題であり、兵庫県立大学に蓄積されている阪神淡路大震災からの復興の取り組み同様、宮城大学でもこうした課題への取り組みを蓄積し、両大学が共に教育プログラムとして確立していくことで、地域課題解決に取り組む人材育成を目指していくこととしている。今後、農業農村工学分野での教育手法検討の題材としていきたい。

参考文献

- 1) 宮城大学・兵庫県立大学:大学間連携共同教育推進事業「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」申請書(2012)
- 2) 郷古雅春:農村計画的な実践活動に求められる能力と大学教育-東日本大震災復旧・復興の現場から-, 農村計画学会誌第33巻2号, pp.136~138(2014)
- 3) 郷古雅春:東日本大震災における農村地域の復旧・復興の課題について, 第3回国連防災世界会議関連事業・東日本大震災を踏まえた防災・減災に資する農業・農村の強靱化シンポジウム資料, p.9(2015)